

## 令和元年度 第1回山梨県考古博物館協議会議事録

1 日 時 令和元年7月26日(金) 14:00～16:10

2 場 所 風土記の丘研修センター 研修室

3 出席者 (敬称略)

(委 員) 井出薫子、笹本森雄、辻村和人、中村京子、中島智子、  
石川博、末木健、長澤宏昌、堀内秀樹、一宮英生、渡邊富孝  
(事務局) 高橋館長、百瀬副館長、高野次長、小林学芸課長、職員3名  
柳沢学術文化財課総括課長補佐

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 委員紹介
- (4) 事務局職員等紹介
- (5) 副会長選任
- (6) 議事・その他
- (7) 閉会

5 会議に付した事案等について

- 考古博物館所蔵縄文土器の盗難事案について
- 平成30年度 考古博物館事業実績について
- 令和元年度 考古博物館経過・予定事業について
- 考古博物館利用状況について
- 委員提言に対する対応・検討状況について
- その他

6 議事等の概要

○ 考古博物館所蔵縄文土器の盗難事案について

(委 員) 土器盗難事案について、会議の冒頭に説明を希望する。

(委 員) 当該事案は不起訴となっており、経過報告しかできないのではないかと。

(委 員) 不起訴処分は今後、地方検察庁が当該事案に関わらないことを意味する。  
今後の考古博物館を考える上で、冒頭に当該事案について話し合いたい。

(委 員) 長澤会長に一任する。

(会 長) 冒頭に説明することについて、事務局は問題ないか。

(事務局) 問題ない。

**【事務局説明】**

(委 員) 盗難された縄文土器を買い戻すことを検討していると思うが、  
買い戻しに要した経費を元職員へ求償するため、  
民事訴訟は行うという理解でよいか。

(事務局) 県教育委員会に相談の上、対応する。

(委 員) 本人は窃盗を認めているのか。

(事務局) 第三者からの提供を主張しており、本人は窃盗を否認している。

(委 員) 盗品は買い戻す方向で動いているのか

(事務局) 買い戻すことを検討している。

(委 員) 考古博物館収蔵品の確認点検は。

(事務局) 定期的に確認している収蔵品は指定文化財 3000 点程度。  
盗難事案後、新たに抽出検査を 1 回実施し 30 点程度を確認した。  
また、この他今年度これまで 300 点程度確認した。

(委 員) 他に盗難はなかったのか。

(事務局) 現在、確認中。

(委 員) インターネットオークションの出品者及び落札者の確認は行ったのか。

(事務局) 出品者は米田氏。落札者は警察の情報により把握している。

(委員) 米田氏が事件を起こした背景として職場環境の問題もあるのではないかと。

(委員) インターネットオークションで所蔵品を販売したとすれば、職員としてモラルに欠ける行為。県が買い戻しに要した経費を元職員へ求償するために民事訴訟を行うべきではないかと。

(事務局) 民事訴訟を行えるよう、教育委員会に働きかけを行って参りたい。

(委員) 対応策について、民間では当たり前に行っているもの。インターネットオークションでなかったら、露見していなかったかもしれない。早急に対応してもらいたい。

(委員) 収蔵庫の状況を委員に見てもらうことが必要ではないかと。

(事務局) 見学自体は可能。施策が終わったところで確認する機会を設けたい。

(委員) 確認された土器は、ダメージや改変等がなかったか。また、研究や活用行為を阻害しないよう、規制は最小限にしてほしい。極端な例で全体の利便性が失われることは損失が大きい。

(事務局) 縄文土器①(原町農業高校前遺跡出土品)は損傷がなかった。縄文土器②(海道前C遺跡出土品)は注記を溶剤等で消した痕跡は確認できたが、完全に消えていなかった。それ以外は損傷がなかった。

(事務局) 教育長も調査・研究に影響を生じないよう対策を講ずると、県議会で説明しており、その方向で進めたい。

(委員) 元職員に対する事情聴取は行ったのか。

(事務局) 拘留中に接見を要請したものの、本人が拒否。

(委員) 使用簿の記入を再発防止策として挙げているが、記入しないで使用するケースもあり、鍵の管理方法や別の職員による立ち会いを行わないと機能しないのではないかと。

(事務局) 鍵の貸し出しについては、責任者を定め、許可がないと貸し出しできない仕組みとしている。

(委員) 数十万点を所蔵しているとのことだが、全数検査を終了するのはいつになるか。

(事務局) 膨大な数の収蔵品があるため、通常の確認作業に加え抽出検査を実施。具体的な終了時期を定めることは困難。

(委員) 収蔵品の多さを考えると、期限を決めて検査することは難しい。少しずつ着実に進めていくしかない。

○ 平成30年度 考古博物館事業実績について

○ 令和元年度 考古博物館経過・予定事業について

(委員) 今年度も館長講座は開催されるのか。  
高橋館長が話をする機会を増やしてほしい。

(事務局) 今後、実施することを検討している。

(委員) 昨年度の古代アンデス文明展について、過去のアンデスプロジェクトの中で最も入館者が少なかった。その要因は。  
また、「縄文文化の頂点」について、県の観光部等と連携しPRを希望。  
企画展について、大阪の世界遺産と関連した展示を検討してほしい。

(事務局) 古代アンデス文明展については、全国的な傾向として入館者数が5割近く減少。今回、4回目の実施ということで、「飽き」があったと考えている。また、夏に実施したため、農家が繁忙期で客足が遠のいたこと。展示の目玉を示すことができなかったことが要因と分析。  
縄文については、日本遺産を巡るツアーなどが多く取り扱われるようになってきており、観光推進機構から特別展と関連したツアーなどが企画されており、継続的にPRしていきたい。  
大阪の古墳が世界遺産に認定されたことを受けて、パネルを一枚追加したい。

(委員) イベント名に言語的な問題がある。「考古博物館 de 春まつり」については、フランス語では意味が通じない。教育機関なので誤解を与えないような表現を望む。

(事務局) 検討する。

(委員) 山梨県の場合、考古博物館・埋蔵文化財センターという研究・公開部門と調査部門が隣接し、人的交流等により業務が推進されており、仕組みについて評価できる。一方で、イベントや展示の数が多く飽和状態にあり、新たな展示・公開の視点を創出するためには研究に力を入れる必要がある。そのため、考古博物館を研究機関へ移行する検討をしてほしい。

また、山梨県には考古系を取り扱う大学等がない。近年、(地公体の) 募集状況を見ていると職員の確保が困難となっているため、安定的に人材を補充できる仕組みづくりが必要である。

(委員) 県立博物館は研究施設。埋蔵文化財センター及び考古博物館は異なる。

県立博物館を参考に研究施設となれるよう検討してほしい。

また、専門員を育てる方法についても検討してほしい。

(事務局) 組織的な話になるので教育委員会との協議が必要。

提言して頂いた内容について、検討したい。

(委員) 昨年、考古博物館の土器がフランスで展示されたことは素晴らしいと考える。

オリンピック等の機会を利用し、考古博物館のPRに努めてもらいたい。

(委員) 防災新館で行われた埋文センターのシンポジウムが興味深かった。

縄文というキーワードで様々な連携を探るべき。

縄文に興味がある人の裾野を広げることが必要。

(事務局) 近年、日本遺産でご朱印帳などを検討している。様々な連携を模索したい。

#### ○ 考古博物館利用状況について

(委員) 学校関係については、バス等の予算的な問題で来館が難しいケースがある。

今後、目標とする利用者数はどのように考えているのか。

(事務局) 少子化の影響に伴い、経年で利用者数は減少傾向にあるものの、当館について紹介したDVD・資料等、様々なツールを活用し、学校関係者に対し積極的にPRを行うことで利用者数の増加を図って参りたい。

(委員) 学校の校外学習については予算の問題ではなく、授業数の問題。校外の機会は1学期で1回、年間多くて18回。様々な観点から訪問場所を設定。少子化等の影響により、山梨県内の小学生の数は平成の30年間で約半分に減少。減少の程度を踏まえれば、考古博物館は貢献している方だと思う。

(事務局) 併設する埋蔵文化財センターでは、出前支援や県外等でPRもしており、連携しながら、引き続き誘致を行って参りたい。

(委員) 考古博物館がFacebookで多くの情報を発信している。SNSを利用し、シェアしやすい情報が増やしてほしい。

○ 委員提言に対する対応・検討状況について

【委員の意見なし】

○ その他

(委員) 全国放送のバラエティで考古博物館が関わった事例があったと聞いた。どうして同時にPRをしてもらわなかったのか。

(事務局) 番組の性格もあり、事前のPRは難しいと説明を受けた。

(委員) 昨年度行われた委員の公募情報が考古博物館のHPに掲載されていた。現在も掲載されているのであれば、削除してほしい。

(事務局) 既に削除済みである。以後このようなことがないように気をつけたい。

以上